

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

自己炎症性疾患診療ガイドライン 2017

日本小児リウマチ学会 (ガイドライン統括委員長: 平家俊男 京都大学大学院医学研究科発達小児科学)

診断と治療社、2017年12月15日 初版第1刷発行

■1 漢方薬 (抑肝散、柴胡桂枝湯)

疾患:

周期性発熱・アフタ性口内炎・咽頭炎・頸部リンパ節炎 (periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, cervical adenitis: PFAPA) 症候群

引用など:

1) 五野由佳理, 堀田広満, 奥富俊之, ほか. 反復性発熱に抑肝散が奏効した一例. *日本東洋医学雑誌* 2014; 65: 191-6.

2) 盛岡頼子. 柴胡桂枝湯で軽快した PFAPA 症候群の一症例. *Phil 漢方* 2015; 55: 28-9.

有効性に関する記載ないしその要約:

周期性発熱・アフタ性口内炎・咽頭炎・頸部リンパ節炎症候群の治療の概要の項に、下記の記載がある。

『わが国では漢方薬も発作予防に用いられている。』